

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400010		
法人名	社会福祉法人 陽翔会		
事業所名	グループホームひざり (東、西 ユニット 合同)		
所在地	静岡県島田市金谷代官町802-16		
自己評価作成日	平成25年2月22日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvoCd=2295400010-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル 6階		
訪問調査日	平成25年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人基本理念である「その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり」に基づき、入居者様及びご家族様が安心して生活を送っていただく事が出来るよう、個々のニーズに合わせた支援を常に心がけております。日々のケアの中で気付いた事について分析し、「なぜ？」そのような行動をされるのかを考え、また、その方の「良い面」に注目し、「工夫するケア」を行うようにしています。ご家族様においては、面会時や電話連絡等において日々の状態や現在の状況をお伝えし、情報共有できるよう努めております。また、気楽に面会に来ていただけるよう心がけております。日々の活動の中で外出・買い物・外食・散歩等をできるだけ行い、また、ボランティアの皆様のお受け入れを積極的に行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「日を限って祈願すれば成就する」日限地蔵尊が近くにあり、霊験が利用者に降り注いでほしいとの思いが事業所の名前には込められています。今年度はQC活動で排泄を取り上げ、自立排泄に持っていく中で、その人の生活がどの程度向上するかをサーベイランスし取り組んでいます。自立排泄が他の機能まで波及することなどが分かり改善に繋がっています。また、職員の提案から実現した、近くのコンビニエンスストアの訪問販売は、実際に利用者が自分の意思で買物が出来る手助けにもなっています。昨年の外部評価で挙げた全ての項目には早急に取り組むなど、管理者と職員の積極姿勢が印象強い事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『その人らしく～明るく健康で豊かな高齢期の生活づくり』を法人理念とし、職員一人ひとりに理念に基づいた介護を行うよう取り組んでいる。	理念の中心となっている「その人らしく」は会議などの場面で、事例報告を基に常に立ち戻る原点として話し合われています。話し合いの中で気づきが育ち、ケアプランに反映されるなど職員間での浸透が見られます。	
(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、買い物、美容院、飲食店への外出や、ボランティア様の積極的な受入れを通して地域とのつながりを保つようにしている。	自治会に加入しており、日常的におすそわけのある関係にあり、婦人会のタオル提供は利用者の作るぞうきんになっています。福祉大学生の実習、社協紹介のお笑い、蕎麦打ち、傾聴のボランティアなど、人のふれあいが豊富にあります。	
	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開講し、地域の方にも参加いただいた。認知症への理解を深めていただいた。		
(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	必ず2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、事業所の運営状況を報告し、意見をいただくよう努めている。	2ヶ月に1度、区長、組長、民生委員、自主防災会長、家族代表など多彩なメンバーで開催されています。会議では、厨房の刃物の管理や非常食はどのくらいかなど活発な意見が挙がり、防止転倒措置に繋がった例もあります。	
(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議を通じて積極的に取り組んでいる。また、島田市で行われる地域密着型サービス運営委員会の委員に任命され、当事業所が手本となり、地域の介護サービスの向上に貢献できるよう努めている。	運営推進会議に毎回参加の市、包括には議事録も届けています。包括からの要請で認知症サポーター養成講座を開講するなど、関係が年々密になっています。毎月訪問の介護相談員からは「来やすく、挨拶も良い」との声ももらえています。	
(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時の研修はもちろんであるが、毎月行っている内部研修の中にもテーマとして年2回以上取り上げ、職員倫理の向上とモラルの徹底を意識するよう取り組み、「身体拘束ゼロ宣言」を実践した介護を行うようにしている。	身体拘束ゼロ宣言をされていて玄関施錠はありません。外部研修にも職員が参加していて、毎月の全体会議でテーマを決め、グループワークで互いの意見を出しあい内部研修に繋がっています。安全優先時のための同意書とマニュアルはありますが、至ったケースはありません。	
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に研修を通じ、職員の意識を高め虐待の防止に努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用までは至っていないため、外部研修への参加等、知識をより深めていきたい。		
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居時に行っているが、入居後においても連絡を密に行い、不安や疑問対して親身に対応するよう心がけている。		
(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、記入いただけるようにしている。また、運営会議の際にご意見を頂く事もあり、他のご家族にもお伝えできるよう議事録を配布し、信頼関係を深められるようにしている。	運営推進会議での家族からの意見は多く、議事録も家族に郵送しています。請求書と一緒に送る「ひぎり新聞」には家族への伝言欄があり、事業所の取組が良く分かるようになったとの声も届いています。納涼祭や運動会にも家族の参加があります。	
(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談を年2回以上行い、その中で職員の意見や考えを聞き、反映している。また、全体会議やユニット会議を毎月開催し、意見を述べやすい環境となるようにしている。	ユニット会議、全体会議が月に各1回あり、コンビニエンスストアの隔月訪問販売は職員の提案から叶っています。職員の個人面談は年2回あり、自己評価を基にした本音を聞けていて、管理者に個人的な相談もあります。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価と上長による業務評価を比較し、業務査定を行い、面談を通してスキルアップの向上につながるようにしている。		
	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「基本的介護チェック表」を作成し、それを基に自己評価し、上長が確認をしている。それぞれの長所、短所、経験を踏まえながら外部研修への参加や内部研修の内容について検討している。		
	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島田市で行うケアマネージャーの連絡会や研修への積極的な参加、地域の病院で行われる勉強会へ参加を通して質の向上につながるようにしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に可能な限り要望を聞き、細かなアセスメントを通してより良いケアサービスが提供できるよう努めている。		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ずご家族からお話を聞き、ご家族の声も可能な限り反映し、良い関係が構築できるよう心がけている。		
	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族から得た情報を通して、1人1人にあったサービスが提供出来るようにしている。		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の視点から考えるように心がけ、気持ちに寄り添う事が出来るよう、支援するようになっている。		
	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には小さなことでも報告するように努め、また電話連絡小まめに行い、関係づくりが途切れないようにしている。		
(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人など、面会に来やすい環境となるように心がけ、ゆっくりしていただけるように配慮している。	面会時間は設けていますが、希望に応じているため会社帰りの家族だけでなく、友人、同僚の訪問に繋がっています。新聞購読や、縫物での雑巾作りなどには「未だ他にないの?」と催促があり、家族が貼り絵指導に向いてくれるなど、継続的な支援がなされています。	
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がこじれないように、必要な際には間に入り、また孤立してしまわないように心がけている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴など、可能な限り収集し、本人の思いを尊重した意向となるようにしている。	家族や面会に来る友人からも生活歴の情報を収集し、個人ファイルに留めて全員で共有しています。担当制を敷いていて、項目を絞ったセンター方式のアセスメントを活用しています。	
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、ご本人・ご家族からの聞き取りの中で把握できるようにしている。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に残し、職員間で情報共有がなされるようにしている。		
(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアやアセスメントで得た情報をユニット会議等で話し合い、介護計画に反映させている。また、ご家族にも目を通していただくようにしている。	居室担当がアセスメントからモニタリングまで行っています。ケアプランは6ヶ月に1度見直しをしていて、状態変化時はその都度見直しています。ケアプラン作成は計画作成者である管理者が行い、家族からは書面に署名捺印で了解を得ています。	
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録をし、情報共有がなされるようにしている。		
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の嗜好や生活歴を鑑み、できる限り対応するよう努めている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源を活用していく中で、地域とのかかわりを大切にしている。		
(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されているかかりつけ医との医療連携が適切に行われるよう努めている。	市民病院が協力医ですが、殆どの利用者は以前からのかかりつけ医を利用しています。家族介助もありますが、日常を理解している職員がおこなうことが多いため、適切な受診に繋がり家族の安心となっています。以前からのかかりつけ医が往診に来ることもあります。	
	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師はいないが、それぞれのかかりつけ医との連携を常に行い、体調変化の早期発見早期対応に努めている。		
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院対応となる場合は、島田市民病院になるケースがほとんどであるが、病院所属の相談員とは常に連絡を行っており、良い関係が保たれていると感じている。		
(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で対応できる事、対応できない事について入所時から説明をし、今後のケアの方向性について理解いただけるようにしている。	現在のところ看取りの実績はありませんが、出来ること出来ないことを契約時に理解してもらい、その後も繰り返し説明がなされています。医療連携も必要となるため重度化には転所に対応していて、急変時の対応マニュアルを分かり易くチャート化し、速やかな対応に繋げています。	
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、また研修通して適切な対応が行えるよう教育している。		
(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的(年2回)に行っている。また、運営推進会議において町内の自主防災会長にも毎回出席いただき、施設の現状をお伝えするとともに地域との協力体制が築ける様努めている。	防災訓練は年2回行い、1回は夜間想定で取り組み、今年度はAEDの設置から使用方法の研修もありました。地区の訓練にも参加し、顔と名前を覚えてもらえています。懸案であったスプリンクラーの設置が叶い、3日分の備蓄を揃え有事に備えています。	事業所での防災訓練に地域の参加が叶っていませんが、訓練に繋げる形で、今年度導入したAEDの講習などを地域の皆さんに呼びかけて、強固な協力関係が築かれることを期待します。

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修においても必ずテーマに取り上げ、日々のケアの中で注意して行っている。	呼称には必ず名前にさんづけで、トイレ誘導は耳元でそっと声掛けするなど、全体に配慮がみられます。業務連絡などに利用者の名前を使わないほか、会議は離れた部屋で行っています。トイレ内の利用者名のあるパット置き棚もカーテンで目隠ししてすっきりとさせ、羞恥心に気配りがみられます。	
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定ができる支援が行えるように心がけている。		
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを強制することなく、個別に対応するように努めている。		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅で生活されていた時の服装をできるだけ持って来ていただき、その人らしい姿でいられるようにしている。		
(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど職員と利用者が一緒に取り組んで行うようにしている。	週5日は調理担当者が週単位で献立を考え料理し、それ以外は職員が行っています。また、週1回以上はユニット毎にメニューを自由に考えて、利用者を交えて夕食作りを行います。食卓テーブルには職員が持ってきた花が美味しさを倍加させていました。	
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行いながら、体重変化、医学的指導に基づき支援している。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人にあった口腔ケアを行っている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、オムツやパッドにできるだけ頼らず自立した排泄が行えるように支援している。	自立者は居室内の個人トイレを使用しています。今年度QC活動で排泄を取り上げ、自立排泄に持って行く中で、その人の生活がどの程度向上するかをサーベイランスし取り組んでいます。自立排泄が他の機能まで波及することなどが分かり改善に繋がっています。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を確認し、食事内容、水分量、日中の過ごし方などに配慮し、対応している。		
(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り本人の希望に沿ったタイミングで提供できるようにしている。	入浴拒否者は現在余りなく、2～3日に1度の入浴が叶っていて毎日の希望にも応じています。1対1の介助はゆっくりと話せる絶好の機会と捉え、いろいろ聞けていて、アセスメントに繋がっています。浴槽入浴困難者にはデイサービスの機械浴を提供しています。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを本人や家族から聞き取り、安心して休む事が出来るように努めている。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の情報提供を必ず行い、それぞれの利用者の薬の内容について把握するようにしている。		
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人に合わせた役割、気分転換が行えるように努めている。		
(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外への散歩やドライブをできる限り行うようにしている。また、家族との外出支援や本人の希望に沿った外出ができるように支援している。	近くに散歩コースがあり外気浴をしながら田園風景を楽しめていて、コースの終わり頃にはラーメン屋さんにも立ち寄りもあります。ドライブでは大井神社の初詣、日限地蔵が恒例となり、また紅葉をかねての親水公園でのピクニックやお茶の里にも足を延ばすこともあります。	

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ、買い物などで金銭のやり取りが行えるように支援している。		
	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の返信などができるように支援している。		
(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や温度などが快適になるようにし、花や飾り物で季節感を出すことで心地良く過ごせる環境となるよう配慮している。	廊下には転倒時のタメーン対策がみられ、室内は温度湿度計で管理されています。壁の切り絵などが季節感を醸し出し、共用空間は職員が持参する季節の花々で溢れています。居間の椅子を窓際に集めて、窓越しにプランターの花や果樹を眺めている利用者の姿もあります。	
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間を工夫し、それぞれが居心地の良い場所となるように心がけている。		
(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、今まで使っていた物を持って来て下さるようお願いし、本人の心地良い居場所になるように配慮している。	エアコン、ベッドが備え付けてあり、各居室内にはトイレ、洗面があります。カーテンは好みの物を持ち込み、その人らしい雰囲気を作ることに繋がっています。居室内にもタイルカーペットが敷かれていて、安全への配慮が視えます。	
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人が安全に自立した生活を送るにはどうしたらよいか考慮し、環境を整備するようにしている。		